

## ■10月2日

ティーウェイ航空(LCC)、新千歳-仁川線、定期便就航

ティーウェイ航空が、12月23日から新千歳—仁川(韓国)線の定期便の就航を計画していることが1日、分かった。新千歳空港にとって、仁川線の定期便は大韓航空、ジンエアーに続き、3社目となる。

北海道新聞によると、ティーウェイ航空は、1日1往復を通年運航する計画で、使用機材はボーイング737—800型(189席)。普通運賃は、往復2万8千円程度からとなる見込み。

同社は2010年に設立され日本では、仁川—福岡線の定期便を運航している。12月20日には佐賀線も開設、新千歳が日本の3路線目となる。

(北海道新聞)10/2

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/495372.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/495372.html>)

仙台空港、8月利用旅客数、30万人突破

宮城県は、仙台空港の8月の月間旅客数が30万8737人(速報値)と平成19年11月以来ほぼ6年ぶりに30万人の大台に達したと発表した。仙台空港を発着する国内線が3月末から過去最多の1日61往復になったのが要因。

これに伴い第三セクターの仙台空港アクセス線は単独運行の杜せきのした駅、美田園駅、仙台空港駅の8月の利用客数が過去最高の30万4965人(前年同月比27・8%増)に達した。

(産経ニュース)10/2

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131002/mygl13100201590001-n1.htm> (-> <http://sankei.jp.msn.com/region/news/131002/mygl13100201590001-n1.htm>)

ノックエア(LCC)、バンコク—ハノイ線就航

(vieto-joによると)

タイの格安航空会社ノックエアはこのほど、2014年よりバンコク～ハノイ/ホーチミン線を就航する計画を明らかにした。ベトナムプラスが報じた。

これに先立ち、同社は2007年にハノイ行き線を就航したが、同路線で赤字が続いたことや、その後、国内線の開発に注力する方針に転換したことで、同路線の運休を発表していた。

なお、現在ベトナムとタイを結ぶ国際線を就航している格安航空会社としては、タイ・マレーシア系のタイ・エアアジア(TAA)およびベトナムの民間航空会社ベトジェットエアがある。それ以外では、ベトナム航空(VNA)やタイ国際航空、カタル航空、トルコ航空などが同路線を運航している。

(vieto-jo)10/2

<http://www.viet-jo.com/news/tourism/130927070654.html> (-> <http://www.viet-jo.com/news/tourism/130927070654.html>)

スターフライヤー、福岡—関西線新規就航、L/F65-70%目指す

スターフライヤーは1日、福岡—関西線に新規就航した。同社にとって、北九州、福岡—羽田、関西—羽田に続く国内4路線目で、1日4往復(8便)を運航する。

通常料金は1万4000円で、28日前までの予約・購入は4500円から、前日までは7500円からとして、関空が拠点のピーチ・アビエーションに対抗する。搭乗率は、65～70%を目指す。尚、福岡発の初便には114人が乗り、搭乗率は79%だった。

た。

参考:時刻表 10月26日まで

スターフライヤー(関空—福岡)		ピーチ(関空—福岡)	
便名	出発/到着	便名	出発/到着
SFJ11	0830/0945	MM151	0705/0815
SFJ13	1200/1315	MM153	1020/1130
SFJ15	1530/1645	MM157	1700/1810
SFJ17	1900/2015	MM159	1945/2055

スターフライヤー(福岡—関空)		ピーチ(福岡—関空)	
便名	出発/到着	便名	出発/到着
SFJ12	1020/1120	MM152	0845/0950
SFJ14	1350/1450	MM154	1200/1305
SFJ16	1720/1820	MM158	1840/1945
SFJ18	2055/2155	MM160	2125/2230

(毎日新聞)10/1

<http://mainichi.jp/select/news/20131001k0000e020170000c.html> (->

<http://mainichi.jp/select/news/20131001k0000e020170000c.html>)

(スターフライヤープレスリリース)10/1

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131001031443.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131001031443.pdf>)

(PEACH HP)

国交省、羽田昼間時間帯、国際線発着枠、傾斜配分する方針

(ロイターによると)

国土交通省が来春新たに拡大する羽田空港の国際線発着枠をANAホールディングス(ANA)に傾斜配分する方針であることが分かった。複数の関係者によると、今回配分する16枠のうち、ANAに11枠、日本航空(JAL)に5枠配分する案が有力という。

羽田空港には来春から国際線の発着枠を1日当たり約40枠増やす計画がある。このうち約20枠が国内航空会社向けに確保される見込みだが、米国との交渉がまとまっていないことから、まずは確定している16枠について配分する。

業界関係者によると、羽田発着の国際便は1枠で年間17億—18億円程度の営業増益効果が見込めるとされ、国土交通省による配分の結果次第で、両社の収益力や国際的な競争関係に変化をもたらす可能性があるだけに、航空行政の判断に注目が集まっていた。

ANAは、JALの再建手法が同業他社に対する配慮を欠いたものだったため、両社の収益力に格差が生じたと主張。国土交通省に対し、発着枠の配分などで健全な競争環境を確保するよう求めていた。

一方、JALは破たんから再上場に至るまで「通常の手続きを踏んできた」との思いがある。羽田の国際線発着枠についても均等配分がフェアと主張してきたが、結果的に認められなかった。今春に実施された羽田の国内線発着枠の配分でも、公的支援を受けたことを理由にANAが8枠、JALが3枠と傾斜がつけられていた。

(ロイター)10/1

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0HR32D20131001> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0HR32D20131001>)

バニラ・エア(LCC)、第2拠点空港はセントレアが最優先

バニラ・エアの石井知祥社長は30日、中部国際空港を「(成田に次ぐ拠点として)最優先に検討する」と述べた。就航から5カ月間で撤退した経緯を踏まえ「収益性を見極めて判断したい」とも語り、再就航は早くて2014年度以降になるとの見通しを示した。石井社長が同日、日本経済新聞のインタビューなどで語った。

(日経)10/1

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFD3001J\\_Q3A930C1L91000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFD3001J_Q3A930C1L91000/) ( ->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASFD3001J\\_Q3A930C1L91000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFD3001J_Q3A930C1L91000/))

山形空港、マンダリン航空のチャーター便4便キャンセル、集客見込めず

山形県は9月30日、山形空港に10月発着予定だったマンダリン航空からのチャーター便計4往復8便が、運航取りやめになったと発表した。台湾の旅行会社がパックスツアーを計画していたが、想定した集客が見込めなくなったためという。

台湾からのチャーター便は、中華航空と遠東航空、日本航空の3社が10月下旬に計8便を運航する予定。10月には台湾でも人気の高い「おしん」の映画が公開されることから、県では映画との相乗効果も生かし、台湾からの観光客増につなげたい考えだ。

(朝日新聞)10/1

<http://www.asahi.com/area/yamagata/articles/MTW1310010600002.html> (-> <http://www.asahi.com/area/yamagata/articles/MTW1310010600002.html>)

(毎日新聞)9/30

<http://mainichi.jp/select/news/20130930mog00m040016000c.html> (-> <http://mainichi.jp/select/news/20130930mog00m040016000c.html>)

デルタ航空、パイロットへ「サーフェス2」配布、コックピットペーパーレス化

デルタ航空は30日、約1万1千人の同社パイロットにマイクロソフトの新型タブレット型端末「サーフェス2」を配ると発表した。

マニュアルなど機内に持ち込む紙の書類を置き換える。軽量化による燃料費の削減などで年1300万ドル(約12億7千万円)の削減を見込む。2013年中に配布を始め、14年には全パイロットへの配備を終える予定。

(日経)10/1

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0100X\\_R01C13A0EB2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0100X_R01C13A0EB2000/) ( ->

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0100X\\_R01C13A0EB2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM0100X_R01C13A0EB2000/))

(デルタ航空プレスリリース)10/1

<http://www.zaikai.co.jp/releases/127882/> ( -> <http://www.zaikai.co.jp/releases/127882/>)

米航空当局、「全ての航空機承認」遅延する恐れ—政府機関の閉鎖期間

(bloombergによると)

米予算協議が難航し政府機関が閉鎖された場合、米ボーイングの最新鋭機「787」(ドリームライナー)の派生型「787-9」やその他の航空機は、航空会社への納入準備が整っているにもかかわらず米航空当局による承認が遅延する恐れがある。

米連邦航空局(FAA)は30日、政府機関の閉鎖期間によっては「すべての航空機の承認」を遅らせると電子メールで通知した。

FAAの職員数は全体で1万5514人。このうち航空機の承認作業に従事する職員は、政府機関閉鎖となった場合に一時解雇となる見込みだ。

(bloomberg) 10/1

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MTY8W96K516O01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MTY8W96K516O01.html>)

中国国際航空、北京から国際線3路線新規開設

中国国際航空は冬スケジュールで、北京発着国際線3路線を新たに開設することを発表した。就航都市はチェンマイ、シムリアップ、ハワイで、チェンマイとシムリアップはボーイングB737-800型機、ハワイはエアバスA330-200型機を使用する。

チェンマイ線は、11月7日から週3便。シムリアップ線は12月1日からで、12月中は週2便とし、2014年1月1日以降は週4便に増便。ハワイ線は2014年1月21日に就航し、週3便で運航する。

(トラベルビジョン)10/1

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59039> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59039>)